

むしたいじくん

「むしたいじくん」のすごいところ

- ① EM活性資材は農薬と違い**化学合成物質を使用せず**有用微生物（EM:乳酸菌・酵母・放線菌・糸状菌・光合成菌等）を利用し作られていますので**人畜無害**です。
- ②有用微生物群の生理活性物質・抗酸化物質により農作物・樹木・果樹等の植物活性化を促進し**元気**にします。
また、その忌避効果で害虫を着きにくなります。
- ④アメリカシロヒトリ・毛虫・アオムシ・アブラムシ等に**忌避効果**が期待出来ます。
- ⑤散布の友は純植物性石鹸を含有しているので展着材の代わりに使用する事で**忌避効果**が持続します。
- ⑥**むしたいじくん（除虫菊粉末）**は植物の薬効成分（除虫菊粉末）を利用したもので駆除抗力は速効性があります。有効成分は光・空気により低くなるので3日程度で無害化します

使用例（埼玉県上里町立上里中学校）

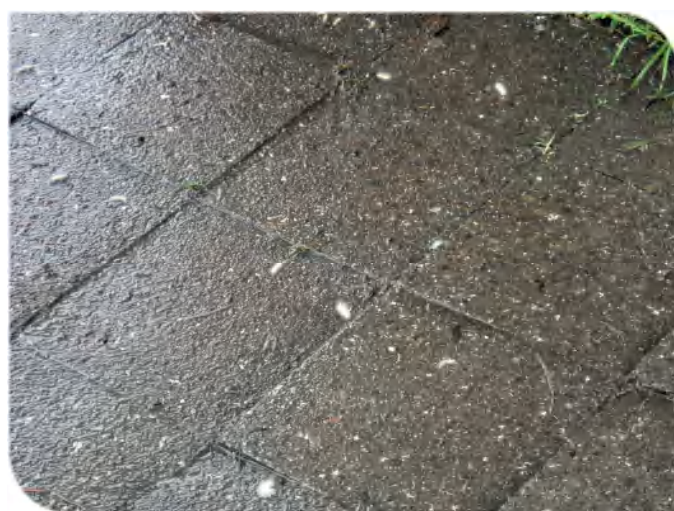
化学物質過敏症の生徒がおり担当内科より農薬の使用を禁止されていたが「むしたいじくん」の**安全性に太鼓判**を頂きました。また害虫に対する効果に**教育委員会の職員**の方々にも喜んで頂きました。

散布中



散布には校長先生・教育委員会の方も参加しました

散布後



この害虫の姿をみて大変喜んで頂きました。

「むしたいじくん」価格表

むしたいじくん（除虫菊粉末）	1kg	¥1,785	300倍希釈使用（300㍓作成可能）
散布の友（展着剤代わりに）	1000ml	¥2,100	300倍希釈使用（300㍓作成可能）
天然ストチュウ	500ml	¥1,575	300倍希釈使用（300㍓作成可能）

除虫菊粉末の殺虫成分は水生動物に対し毒性を持っているので池等が隣接し大量使用する場合十分に注意をしてください

お問い合わせ先

FOREST

（有）フォレスト 環境浄化事業部 担当 竹井 禎
t e l 048-526-4817
携 帯 090-9142-5986

むしたいじくん使用方法

むしたいじくん散布液を 10 ㍓作成する場合

- ① 容器に散布の友（50cc）を入れ注水（約 1ℓ）しながら良く溶かしてください。
- ② ①の容器にむしたいじくん（除虫菊）（50g）を入れて良くかき混ぜます。
- ③ ②の容器に水（水道水の場合 1 日汲み置き水を推奨）を加えてさらにかき混ぜ 9.95 ㍓にします。
- ④ ③の容器にEM活性資材（50cc）を加えかき混ぜて完成です。
（EM5・活性液を代用しても結構です）
一昼夜置くと駆除成分がよく抽出されます
注：むしたいじくんKは不溶性ですので手押し式噴霧器・スプレーヤー等圧力が少ない噴霧器をそのまま使用するとノズルが詰まります。
必ず布袋等で濾した散布液をご使用下さい。
- ⑤ ④液をスプレーヤー・手押し式噴霧器等で害虫のいるところに噴霧してください。
野菜・植物の葉面散布の要領でしたり落ちる程度に散布すると効果があります。

散布の友使用のポイント

- ☆散布の友は純植物性石鹼を主成分とした無害な資材ですので展着効果が期待出来ます
また、アブラムシやダニよとうむし等の幼虫類に気門を塞ぎ窒息させる効果がありますので倍率を高くしながら使用してみてください。
但し、高い倍率で散布後、乾いたあとにEM活性資材の 1000 倍希釈液等で洗い流してください。

むしたいじくん（除虫菊粉末）使用のポイント

- ☆むしたいじくんは純植物性除虫菊粉末を主成分とした資材でその有効成分であるピレストリンに殺虫効果があります。（昭和の初期にかとり線香として使用されていました）
また、害虫全判に効果がありますが、天然成分でもあり酸化分解されるので効果が下がります。（一般的に 2・3 日と言われていました）
当時の例として、蚊取り線香で蚊が落ちたのにしばらくするとまた飛び出したと言う例もあります（温血動物・ほ乳類は血液中の酵素で加水分解されるようです・・・血を吸ったかには効果が低い）
その為、害虫の発生状況に合わせて散布倍率・回数を調節してください。
また、除虫菊粉末がそのまま入っており水溶性ではありませんので、野菜・果樹に使用する場合、花びら・花粉の粉末が残る場合があります、食べる前に良く洗ってから食べてください。

- ☆むしたいじくんは純植物性除虫菊粉末で水溶性ではありませんので手動式噴霧器・ジョーロ等で散布した場合噴霧口が詰まるときがあります。
出来る限り溶液の上澄み又は布などで濾してからを使用してください。
（圧力の高い動力噴霧器（3MPa以上）の場合支障ありません）

- ☆むしたいじくんは除虫菊粉末の有効成分ピレストリンにより殺虫効果が期待出来ますが水生動物への毒性は強いので散布箇所の周辺に池・川等がある場合十分に注意をしてください。